

出雲地区

# 保護司会だより

## 第8号

### 愛する側を行く大人へ

保護司 千葉 紘子  
篤志面接委員



大罪を犯す人

の心は、死の方  
向を向いていま  
す「死にたいけ  
れどひっそりは  
嫌だ、人を巻き  
添えにして死ん  
でやろう」。

犯罪も非行も自殺傾向を背後に持ち、それゆえ快楽追求の姿勢を見せるようです。墮ちる開放感はおもしろい、それは成長や自立から離れて無責任に浮遊する状態。それでは結果を見通す想像力も育たず、いつの間にか思わぬ深みに踏み込んでしまっています。

人間が喜びを得るのはモノではなく、人と人の係わり、とりわけ家族との中にあるはず、それを得られない子どもたちは、「生きている意味がわからない」と言うのです。

篤志面接委員として女子少年院で面接した十四歳から十九歳の少女たちの言葉の幾つかです。

「あの時、家族がばらばらになっ

た」

「居場所が無かった」

「寂しかった、夜も友達といった」

「性経験をしたら非行が深まった」  
「ネガティブな経験に傷ついているのです。そして周囲の希薄な人間関係のなかで漫然と生き続けポジティブに変革する力が生まれなかったのです。」

このような子どもたちに対し、少年院の教官は真摯に向き合い、その性質に応じ言葉を掛け、対応を考えます。時にはしっかりと指摘して本人が気づくのを促します。

誰も信じない、自分さえも肯定できない人たちにとって、それは厳しいことです。逃げたいのに逃げられない、考えたことも無い自分の本質的問題、何故そうしたのか、どうすればよかったのか、考えれば考えるほど分からないし、人によってはかたくなに意地をはって自己改善を拒みます。

その中で、希望が持てる瞬間があります。あるとき少女が、落とし

ていた視線をふと上げ透き通った瞳で「先生が怒ってくれた」などと話し始めます。「人を怒るのは嫌なこと、気分も悪いはず、それでも私のためにしてくれた」。怒る人の気持ちに案じ、教官の言葉を自分に対する愛情と確信した人のやわらかい微笑を、私は感動の面持ちで見つめたのです。

いま、日本の社会を見て気になることは、一時の自分本位の怒りに身を任せ攻撃的になり、自分が正しいと押し通そうとする、甘えと幼稚性が目立つ人がいることです。

世間では、子どもを甘やかすすぎる、厳しい「親父」が必要だ、道徳をもっと、と叫びます。どれも大切なことですが厳しさは愛あつてこそ伝わるもの。愛されている実感を相手が持てない厳しさや、厳しさの無い甘やかしは無に等しいのです。

生きることは辛く苦しいことに耐える力を必要とします。そこでの自立を教えることこそ、本当の愛であり厳しさなのでしょう。

仮退院の前「少年院で学んだことは」と聞くと殆どの人が、「我慢だった」と答えます。それを忘れず、しっかりと一歩を踏み出してほしいと願うばかりです。

# 平成十九年度「社会を明るくする運動」

標語入選作品

出雲地区保護司会では、「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」がアピール出来る標語を、一般の部、小・中学生の部として募集しました。

一般の部では、出雲市・斐川町にお住まいの方々から総数二百五十余の応募がありました。

また斐川町では今年度初めて教育委員会を通じて町内の小・中学生に「社会を明るくする運動」の一環として呼びかけをしましたところ、小学生二百十二点、中学生五十五点の応募がありました。

なお、出雲市内の小・中学生には例年のとおり出雲市青少年育成協議会と共催で募集しました。小学生千二百四十四点、中学生五百十六点の応募がありました。

それぞれ慎重に審査した結果、左記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

## 【一般の部】

### 最優秀賞

### その笑顔

君は未来の宝物

今市町 藤原よし子

### 優秀賞

### 非行の芽

育つもなくすも 家庭から

湖陵町 石飛 順子

### 「こめんね」と

言える大人は 子どもの手本

斐川町 大森 真弓

### 声かけあい

めざそう非行のない社会

湖陵町 春日ノブ子

### 今耐えて

負けない君に 未来あり

大社町 藤井 京子

### 立ち直る

気持ちに寄り添い 見守る地域

斐川町 古川 裕史

### 閉ざされし

心に届け 母の愛

大社町 松井 邦江

### 佳作

### もう一度

その芽をのばせ やさしい社会

大社町 伊野木 正

### 見つけたら

すぐに摘み取れ 非行の芽

湖陵町 打田 薫

### ささえあう

地域社会に 非行なし

松寄下町 長子 明久

### 信じ合い

育む家庭に 非行なし

古志町 小玉 幸枝

### 「イケナイヨ」

一言言える 勇気もて

今市町 高松 稔

### やさしさと

愛の対話と おもいやり

佐田町 田部 時夫

### 善悪の判断

身につけさせよう 家庭の中で

小伊津町 土江 佳子

## 第57回「社会を明るくする運動」の実施について



今年の「社会を明るくする運動」は、出雲市と斐川町でそれぞれ行いました。

またこの運動の一環として、七月三日にビッグハート出雲を会場として、奥出雲町の臨濟宗妙心寺派蔭涼寺住職松本憲二郎氏をお招きし、「日本人の心を取り戻すために」と題しての講演会を開催しました。住職として、福祉施設長としての立場から日ごろから感じていらつしやることを中心に、時には得意のギターの弾き語りを交えての講演は、聴衆をひきつけるものがあり、参加者一同再度「日本人の心とは」について考えさせられる講演会となりました。

●ふれあいの

数だけ育つ やさしい心

斐川町 古川 直子

●挨拶は 心をつなぐ 絆なり

古志町 三島トミ子

●声かける

笑顔にいつも 励まされ

大社町 山田 翠

【出雲市 小学生の部】

●最優秀賞

わすれるな やさしさ

ゆうき おもいやり

灘分小学校五年 秋国 里奈

●優秀賞

「おかえり」と

地域の人に 守られて

●うれしいな

きょうももらった「ありがとう」

灘分小学校一年 土江晃太郎

【出雲市 中学生の部】

●最優秀賞

メールより 自分で伝える

正直な気持ち

浜山中学校二年 石飛 勝也

●優秀賞

差し出す手 閉じた心を開く鍵

第三中学校一年 錦織 瑠

●大事だよ

自分にストップ かけるのも

浜山中学校二年 堀江満里奈

【斐川町 小学生の部】

●最優秀賞

まもってくれる

ちいきの人に ありがとう

出東小学校三年 古川 朱里

●優秀賞

ぼくをみて

てをふってくれたきみ

うれしいな

西野小学校一年 小豆澤正輝

●ありがとう

この一言で 心が通う

中部小学校五年 伊原 美緒

●どうしたの？

人を気づかう やさしい心

西野小学校四年 川内 翔太

●「大丈夫」

君の一言 ほっとする

莊原小学校四年 昌子 愛

●悪口は 人の心を こわす

出東小学校六年 福田 浩隆

【斐川町 中学生の部】

●最優秀賞

なくそうよ

悲しい涙と 冷たい目

東中学校三年 飯塚 裕子

●優秀賞

あいさつで

つながる心 地域の輪

東中学校二年 大森 朱華

●目指そうよ

明るい未来 僕達で

西中学校三年 鬼村 佳祐

●立ちあがれ

きみの勇気で 変ること

西中学校一年 小島 尚子

●見つけよう

人の優しさ 思いやり

東中学校一年 古川 悟

●無視はダメ

傷つく心の 赤信号

西中学校三年 持田 卓摩

保護司の異動

◎退任

伊藤 勝己(乙立町)

飯塚 武(斐川町)

(平成十九年十一月三十日)

◎新任

富岡 俊夫(斐川町)

(平成十九年十二月一日)

更生保護、あなたの善意が 事業の支え。

明るい社会を建設する更生保護事業には種々の施策が講ぜられていますが、何と申しましても地域社会住民の皆さんの協力なくしてはできない仕事であります。一人でも多くの理解ある協力者を社会に求め、物心両面に亘り御支援を得なければ、その目的を達成することは困難であります。こうした状況から、島根保護観察協会は県下における犯罪の予防並びに保護司活動等の充実発展を図る目的をもって組織されています。

この趣旨に基づいて出雲地区保護司会でも市民の皆様や企業・団体へ会費の納入をお願いいたしましたところ、多額の納入をいただき、全額を島根保護観察協会に送金させていただきました。ご協力いただきました多数の皆様にご誌上を借りて御礼申し上げます。

出雲地区保護司会  
会長 坂本 圭祥

# 塀の外の塀

## 出雲地区保護司会研修部

初夏の六月十八日、出雲地区保護司会では兵庫県の加古川刑務所を訪問し、保護司として大変よい研修をすることができた。

この刑務所は、神戸刑務所所管の建設場所として発足し、昭和二十四年に加古川刑務所として独立している。そして、昭和五十三年に交通事故犯懲役受刑者集禁施設を併設している。

刑務所は、自らの改善更生プログラムにより、再び犯罪を犯さなためと被害者への感情の理解として、内面的心の教育がなされている。

日中は、施設内における作業を行うことにより、就労意欲と社会復帰後における生活設計を立て自立できるよう指導されている。

特に厳しいのは、居室が狭いことで、十二畳に七、八人が寝起き



をしていることである。そこでお互に協力、助け合う社会性を養うところでもある。

ここは、全国でも数少ない交通刑務所が併設され、塀の外に塀のある刑務所であった。

この交通刑務所は、非常に開放的で、施設はなく定められた日課の中で自立した生活を行い、人の生命の尊さを知り、自らの力で自らの人生を反省し自立するよう指導されていた。

教育内容は、「被害者の立場になれ」との自問自答を繰り返し、施設内に設置されている「誓いの碑」の前で、朝夕自らの罪を懺悔し、「生命」の大切さを知るよう指導されていた。

この中の受刑者一人ひとりを見ると、それぞれの人に家族があり、刑を終える日を待っているのだと思うと胸がつかまる気がした。被害者にも家族がいることを考え、しっかりと罪を償って、刑を終えた後も再犯しない生活を送って欲しいと願いつつ刑務所を後にした。

## ご紹介

去る十月三十一日出雲市民会館にて、第二十三回中国地方更生保護大会が開催されました。この大会のご講師として、保護司・篤志面接委員である千葉紘子さんの記念講演がありました。この機会に千葉さんから玉稿をお寄せいただきましたので、一頁に掲載させていただきます。

### ◆千葉紘子さん\*プロフィール◆

- 70年2月 大阪万国博覧会「第3回全国カンツォーネコンクール」優勝
  - 71年7月 「恋する女に悔いはない」で歌手デビュー
  - 72年7月 「折鶴」発表
  - 83年2月 法務省・篤志面接委員に委嘱される
  - 90年12月 法務省・保護司に委嘱される
  - 97年7月 総務庁・15期青少年問題審議会委員に任命される
  - 98年7月 法務省・法制審議会少年法部会委員に任命される
  - 00年10月 「少年法等の一部を改正する法律案」の審査のため、国会衆議院法務委員会参考人として意見陳述
  - 01年4月 文部科学省・中央教育審議会生涯学習分科会委員に任命される
  - 02年9月 瀬戸山賞受賞
  - 03年3月 財団法人矯正協会・副会長に就任
  - 03年4月 最高裁判所より、東京家庭裁判所家事調停委員に任命される
  - 04年4月 監獄褒章受章
- ◆主な著書「あした、青空」(毎日新聞社)
- ◆ホームページ  
http://www.chiahiko.com

## お知らせ

更生保護功労により、平成十九年中に受章されました皆様です。(敬称略)

瑞宝双光章 福岡健文

法務大臣表彰

伊藤皓元・三島洪道

全国保護司連盟会長表彰

井上明男・手銭昇三

中国地方更生保護委員会

委員長表彰

柳楽利子・田坂 将

中国地方保護司連盟会長表彰

飯塚 武・千葉琢道・高橋樹男

松江保護観察所長表彰

岸 篤彦・板倉秀治・高瀬泰子・安井幸男

島根県保護司会連合会長表彰

園山恵子・野津雅史・和田智恵美

## 編集後記

第八号は、「社会を明るくする運動」の一環として募集しました標語の入選作品を中心に掲載しました。みな様からのご意見、ご叱正、ご支援をお願いいたします。(柳楽利子)